

# 世代を紡ぐ 道しるべ

②

中島敏

元海上保安官のひょうぶ

私の夢は、現場で人の命を救う大型巡視船のグレートキャプテンになることでした。かたが、昭和53年（P.L. 船長）の三船敏郎のイメージです。同期が次々にP.C.の船長機関長になる中、船長という憧れのポストに就けなかったことは忸怩たるものがありました。ただ、船長で

なければ人の命を救えないわけではありません。いつからか、船長になれなくとも、目の前の仕事は手を振り替えたように思います。皆さんの夢は何ですか？ 「特救隊、海猿」になりた

らといって加藤あいのような彼女ができるとは思わな

いください。そこは、あくまでも本人の努力？ 次第です。

閑話休題。特救隊の定員は36人、海保の定員が1万4477人です。特救隊員になる確率は僅か0.25%。なれない人の方が圧倒的に多い、これが現実です。特救隊のモットーは「苦しい、疲れた、もうやめた

めは人の命は救えない」。では、人の命は救えない。そう、目的は人の命を救うこと。特救隊員になるとい

うことは、人の命を救うた

めは選肢肢の1つです。冷静に考えれば、特救隊でなくとも人の命を救えるポストはたくさんあります。私は、特救隊員になれない可能性を強調したいわけではありません。特救隊員救うことはできなかつたものの、人の命を救う業務を支援し、その環境作りの一翼を担えたのは幸せでした。私を陰になり日なたになり助けてくださった皆さんのおかげ、感謝に堪えません。特救隊のみならず、組織がピラミッド型のヒエラルキー構造である以上、自ら希望するポストに就ける人

## 志を持つ